

これまでの協議をふまえた 15 年先の学びと配置の将来像（案）

育みたい資質や能力

三重県教育ビジョン(R4.3策定)

～子どもたちに育みたい力～

- 自立する力**：主体的に学び、困難に向き合い、自信と誇りを持って、責任ある行動を取る力
- 共生する力**：他者と共に支え合って生きていく力や、対立やジレンマに対処する力
- 創造する力**：イノベーションを起こしたり、新しいアイデアや解決策を生み出したる新たな価値を創造する力

伊勢志摩地域高等学校活性化推進協議会

～「令和4年度の協議のまとめ」資料から抜粋～

- 大学進学や就職などの進路実現につながる多様な学び
- 学校内外での様々な人々との関わりを通じて豊かな社会性・人間性が育まれる学び
- 地域と連携し地域への愛着心が育まれる学び
- 一人ひとりへのきめ細かな関わり
- 自己の将来を切り拓く力や、自ら学び続ける力、確かな学力
- 将来、地域の担い手となる人材や地域に戻って活躍する人材の育成につながる学び

令和7年度伊勢志摩地域の高等学校のグラデュエーション・ポリシー（一部抜粋）

【普通科】

- 豊かな人間性を備え、自らを律し、他者を思いやり、他者と協力することができる
- 高い志を抱いて、社会に貢献できる
- 自他の命を尊重し、差別をなくす実践力と高い自己肯定感
- 自律・協調・敬愛の精神を持って社会で活躍できる

【総合学科】

- 進路実現に向け、基礎的・総合的な学力や社会的・職業的自立に必要な規範意識と態度
- 行動力、思考力、コミュニケーション能力、創造力、表現力、自己肯定力、自己管理力

【専門学科】

- 産業界から求められる技術・技能習得
- 「企画力」「調整力」「実践力」「突破力」「地域への貢献力」等
- 社会人としてのマナー
- 考え抜く力、チームで働く力、前に踏み出す力

学びと配置のあり方の方向性（これまでの整理）

- 当地域は、各学科・コースの学びの選択肢はできる限り維持することが望ましい
- 進学ニーズに応える普通科高校は、多様な選択科目の開設ができる教員配置の観点から、8学級規模が望ましい。やむを得ず学校規模を縮小する場合、6学級を下回らないよう一定規模を維持
- 部活動の活性化の観点から、4学級以上が望ましい
- 県内唯一の学科を有する水産高校は、引き続き活性化に取り組む（現計画期間）
- 中学校卒業生数の減少を踏まえると、統合はやむを得ない
- 現場の声を踏まえつつ、抜本的な再編も検討
- 多様な子どもたちのニーズに対応
- 通学時間・距離や校舎の老朽化への対応も考慮
- 地域の子どもたちから選ばれる高校の特色化・魅力化と情報発信
- 入試制度や学級編制基準、教員の配置基準の動向も考慮

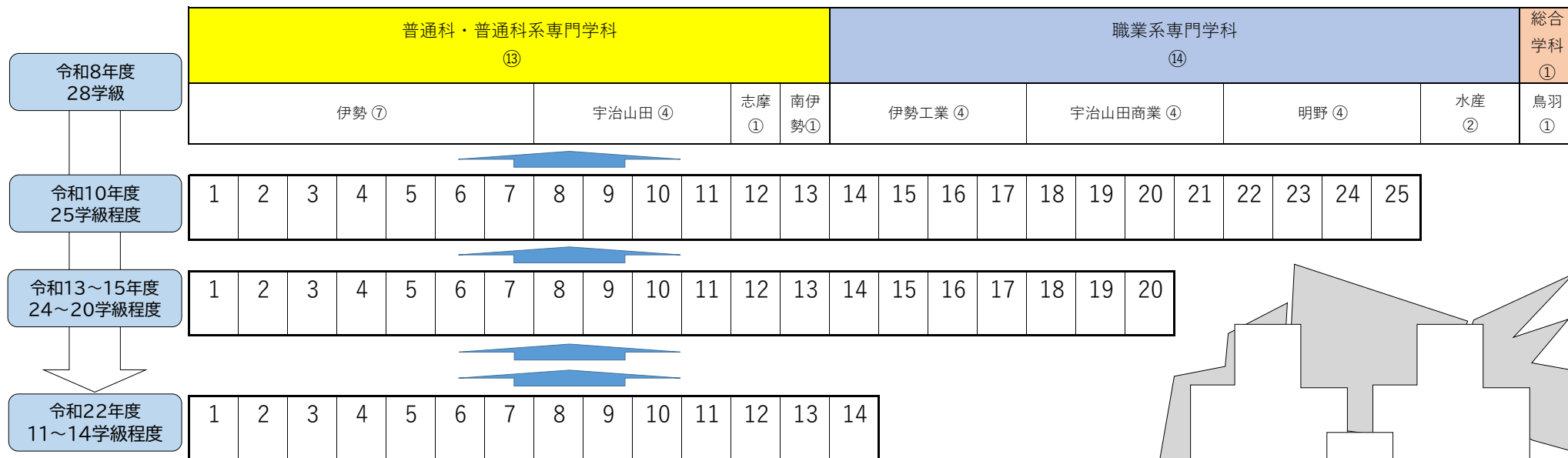
R8年度(28 学級)

宇治山田	4学級	160	普通科 13学級 (46.4%)
伊勢	7学級	280	
南伊勢(度会校舎)	1学級	40	
志摩	1学級	40	総合学科 1学級 (3.6%)
鳥羽	1学級	40	
伊勢工業	4学級	160	専門学科 14学級 (50.0%)
宇治山田商業	4学級	160	
明野	4学級	160	
水産	2学級	80	

R22年度(14 学級程度)

- 進学対応や、各専門分野の技術・技能の習得などの学びの選択肢を確保しつつ、3校程度に集約
- うち、1校は県内唯一の学びをもつ水産高校とする

※学びと配置の実現に向けては、課題の提起と、課題解決の方策の検討が必要



- 進学対応や、各専門分野の技術・技能の習得などの
学びの選択肢を確保するためには、どのような特色・魅力をもった学校とすべきか
- 再編する上で生じる課題は、何であるか
- 課題を最小限に抑えるために、伊勢志摩地域として、どこに配置すべきか

